

釣れ釣れなるままに

2004年思い出の釣行記 PART. 3

湯泊岬に吠える



ホッケとシマゾイ新記録

鹿島釣狂

☆釣行日	平成16年6月12日			
☆入釣場所	雄冬湯泊岬			
☆潮	干潮	00:25	28cm	
	満潮	09:14	114cm	
☆天候	小雨のち曇り			
☆釣果	アブラコ	478mm	400mm	2
	カジカ	420mm	350mm	2
	ホッケ	443mm以下		9
	シマゾイ	370mm		1
	クロゾイ			1
	ガヤ			11

懐かしの雄冬行き

釣りに出かけることが出来ないもどかしさに悶々とする日が続いた。女房が週末の予定を聞いてきたので、これ幸いとばかりに釣りに行くとだけ告げ、そそくさと釣行の準備をし始める。女房の方も予定はなかったらしく、『よさこいソーラン祭』の見学に誘おうという腹積もりであったらしい。

エサ等は市内の「フィッシングマルタカ」で揃える。釣り具を見てしまうと様々な釣りのイメージが広がり、あれこれと買いそろえる。サビキでのホッケ・ニシン釣り、ソイやガヤの浮き釣り、アブラコやカジカを狙っての投げ釣り、防波堤や砂浜でのカレイ釣り、岩老川でのアメマス釣り、徳富川でのニジマス釣りと同様に広がる。防波堤での穴釣りにも対応できるようにとブラーまで買いそろえた。

12時過ぎには出発しようと考えていたが、結局13時半になって雄冬に向けて家を出た。雄冬湯泊岬は16年前の一時期、砂川に住んでいた時によく通ったところだ。途中、徳富川の深い瀬に大ニジマスを追い、浜益川の清流に可憐なヤマメの姿を思い描く。

浜益港には、1時間余りで着いた。外防への駐車帯には先行者の車が並び、すぐ前の岸壁は5名ほどの釣り人が竿を出していた。防波堤先端の白灯台ではギスカジカの内蔵を処理している釣り人がいたが皆手持ち無沙汰の様子である。波よけ堤の上を歩いていると少年がテトラの穴釣りをしている。釣果を聞くと、大物アブラコを含めて大漁であると言い、興奮冷めやらぬ様子でその有り様を伝えてくれる。そのすぐそばのテトラの上で父親が外海に向かって投げっており、彼もまた私の問いに大漁であると快く応えてくれる。クーラーボックスを開くと30cm弱のアブラコとホッケ、砂ガレイが数匹収まっていた。浜益港の最近の様子も含めて今までの釣果を教えてくれる。湯泊岬が全く駄目であれば、夜中の0時頃からこの平らなテトラに陣取り、朝方にかけてカレイを狙ってみようと思う。

浜益港を後にし、雄冬に向かう途中、電光掲示の道路標識が出ていた。「床丹から大別狩

にかけて22時～6時、夜間通行止め。ただし、土・日曜日を除く」とある。本日は土曜日である。湯泊が駄目なら遠く初山別村の第三栄の砂浜にまでと心移しながら安心して通過する。

二つ岩トンネル前の岩場にも通った思い出があるが、現在は新しいトンネルが延びて、入釣場所が完全に消えている。雄冬漁港にも立ち寄ったが、釣り人たちは防波堤に座り込み活発な動きが見られない。岩老川の前浜でもよい思い出があるが現在はテトラがびっしりと組まれており、何度か降りようと試みたがその壁は厚く断念する。

年配者として立てられる

湯泊岬の駐車帯に着いた。一台の車が停まっており、若い釣り人が準備している。話し掛けると、「湯泊岬は初めてであり、どうしようかと悩んでいるところでした。連れができて嬉しいです。」と言う。私も一人では心細いこともあり喜んで同行することになる。



腰を悪くしているので先に行くと言う彼を見送り、私は様々に用意した荷物から必要な物だけをひとまとめにして後を追いかける。道路の脇から浜に下りるためのハシゴは以前と位置が変わっており、高い胸壁の脇に一旦荷物を置いてトンネル脇のコンクリート壁に付いた30cmばかりの回廊を進んだ。大会時と比べると荷物は随分と軽いが、16年前の体力は残っていないと考え慎重に歩を進めた。特に海に面している急な岩坂は短い距離ではあるが、慎重を期した。

腰を悪くしているの

先行者は湯泊岬左平盤中央に荷物を置いて入釣場所を思案しているようである。私も一旦荷物を平盤の入り口に置いて、付近の海況を見て回る。以前より海藻の付きが良いようである。どこでもさほど変わりはないと判断し、先の若者に「お先にどうぞ」と場所取りを譲る。若者も年配者を立てているのか遠慮して「お先にどうぞ」を固持する。お互いに譲り合っても埒^{らち}があかないので、以前何度か入釣した経験のある湾洞に面した高い場所に荷物を移動させる。幾分ウネリがあるが、湾洞の中の波は死んでおり、夜を迎えてからの浮き釣りも可能である。彼は私が最初に荷物を置いた場所に竿をセットした。

17時、25号投げ竿3本にごつい太平洋仕掛けを付けて投げ分け準備完了。夜釣りに備えて浮き釣りも準備しておく。早速、中投した竿にガクンガクンとアタリが出る。沖の

潮目にイカゴロネット仕掛けでぶち込んでいたものだ。40cm上のカジカが上がったが、この限界では初めての大物である。喜びの余り先程どの御仁に向かって「釣れたよ」と叫ぶ。早速、近くに来てフラシを覗き込みながら「いいカジカですね。これで魚がいることが判りました。がんばります。」とくる。

遠投の竿にもバタバタとしたアタリが出る。ホッケだろう。しかし、これは根掛かりしている。タコが付いているようでもあり、僅かにリールを巻き取ることができるのだが、タコが岩から離れない様子である。道糸をゆるめておくとアタリは何度も出るのだがなかなか外れてくれない。竿を何度も続けて煽るとフツと軽くなり、チビホッケが上がった。

18時、食べ物や飲み物を取りに一旦車に戻る。日和岬との湾洞に面したところで後から入釣した3名の釣り人が準備を終えている。竿先に浮き釣り仕掛けをぶら下げたままで暗くなるまで待つと言うことである。

新記録樹立

19時、竿先にケミカルライトを付けて、缶ビールで喉を潤す。夜戦の突入である。次々とアタリが出るようになった。ホッケである。ゴロネット仕掛けは僅かな用意しかないのを慎重に根掛かりと対応する。イカゴロも30本では心許ない。

両天秤仕掛けの近投の竿がグイッ、グイッ、グウーンと海面に向かって突っ込んだ。アブラコだ。深みの根を目指して突っ込んでいく感触がたまらない。少し海面からの距離はあるが一気にごぼう抜きした。丸々と太った50センチ近いアブラコがイカゴロを加えて上がってきた。丁寧にフラシに入れて潮だまりに浸けておく。

ソイを狙って浮き釣りも併用する。しかし、ソイのあたりは一向に出ずチビガヤと遊んでいると、投げ竿の竿尻がガタガタと岩棚を叩いた。慌てて竿を煽る。大物の魚の感触を楽しみながらゆっくり引き寄せていると途中の根に潜られてしまった。ガチッと岩に掛かったようで外れない。やはり道糸をゆるめて放置する。もう一度大きなアタリが出て竿を煽ると今度は抜けてきた。一気にリールを巻き取り、これもごぼう抜きする。45センチ程の丸々と太ったホッケである。口元を見るとハリが唇の皮一枚を僅かに残してようやくという感じで引っかかっていた。

時計が22時を回った。やはり浮き釣りでチビガヤばかりと遊んでいると、投げ竿の方でガタガタッ、ガタガタッと音がする。ソイのアタリだ。それとばかりに竿をつかみ一気に竿を煽る。キャップライトの光に浮かび上がったのはシマゾイである。黄色みがかかった体に黒い縞模様が鮮やかに映える。35cmを超えていそうで、私には初の大型シマゾイである。

件の若者が帰り支度を始めて、釣果を尋ねてきた。フラシを持ち上げ覗き込み驚嘆の呻きを漏らした。「入釣場所の選定を誤りました。この次訪れたときはここに入釣させてもらいます。」と去っていった。私はホッケやシマゾイの新記録樹立でもう満足、満足である。アタリが途絶えたのを期に帰り支度を始める。大会では考えられないのんびりとしたしか

も充実した一時であった。朝方に浜益港によってカレイをという気持ちは全くなくなった。

1時、「夜中は物騒なのでドアにチェーンを下ろします」と笑いながら言う女房の言葉が妙に引っかかり電話するがつながらない。雄冬のこの界限は電波圏外なのである。浜益でようやくつながった。2時30分、砂川に到着し、荷物は明日片づけることにして、魚の入ったバツカンだけに氷を入れる。風呂にお湯を張りどっぷりと浸かり、就寝した頃は白々と夜が明けて来ていた。

次の日、早速魚をさばいた。ホッケは魚干し網で干したが、陽差しが強くなり良好な仕上がりとなった。職場では、休日なのにもかかわらず2名の同僚が熱心に仕事をしていたので、早速その旨そうなホッケの開きを進呈する。

夕方になってから町内会で歩道脇の花壇の手入れがあった。スギナを抜いていると、町内会長がどこかへ出かけましたかと尋ねてくる。今日の釣行の話をする、会長の趣味も釣りであり、船釣りの同好会の会長を任されているが、仕事が忙しくてなかなか出席できないのが辛いと話してくれる。趣味が同じ釣りなので話は延々と続いたが、その内にスギナを抜く手が竿を持つ手に替わり、端から見ると不思議な光景に見えたことだろう。

【つれづれ】

○帰りの荷物が来たときのものより重たい。こんなことは久しぶりである。帰途、道路への胸壁に荷物を上げるのに苦労した。

○父や兄嫁のお母さんの葬儀では、叔父と釣りの話しばかりしていた。葬儀に生臭い殺生の話は御法度なのだが・・・。

叔父もこの日はオホーツクに釣りに行くと聞いていたのでその結果を聞くために電話してみた。叔父はクロガシラが40枚以上釣れて、40cm以上も2枚ある。25センチ以下は全てリリースした釣果であると宣う。自分の釣果をなかなか言えずにいたが、ようやく聞いてくれたので、叔父を上回る勢いで話した。そして、この次の釣行を約束して電話を置いた。

アブラコ458+ホッケ440+5500g(カジカ420、アブラコ400、ソイ370)
1448点



